

地質図ライブラリー地質の日関連展示 「明治時代の地質図とヘリテージストーン」

佐藤 努¹・鈴木 浩子¹・都井 美穂¹

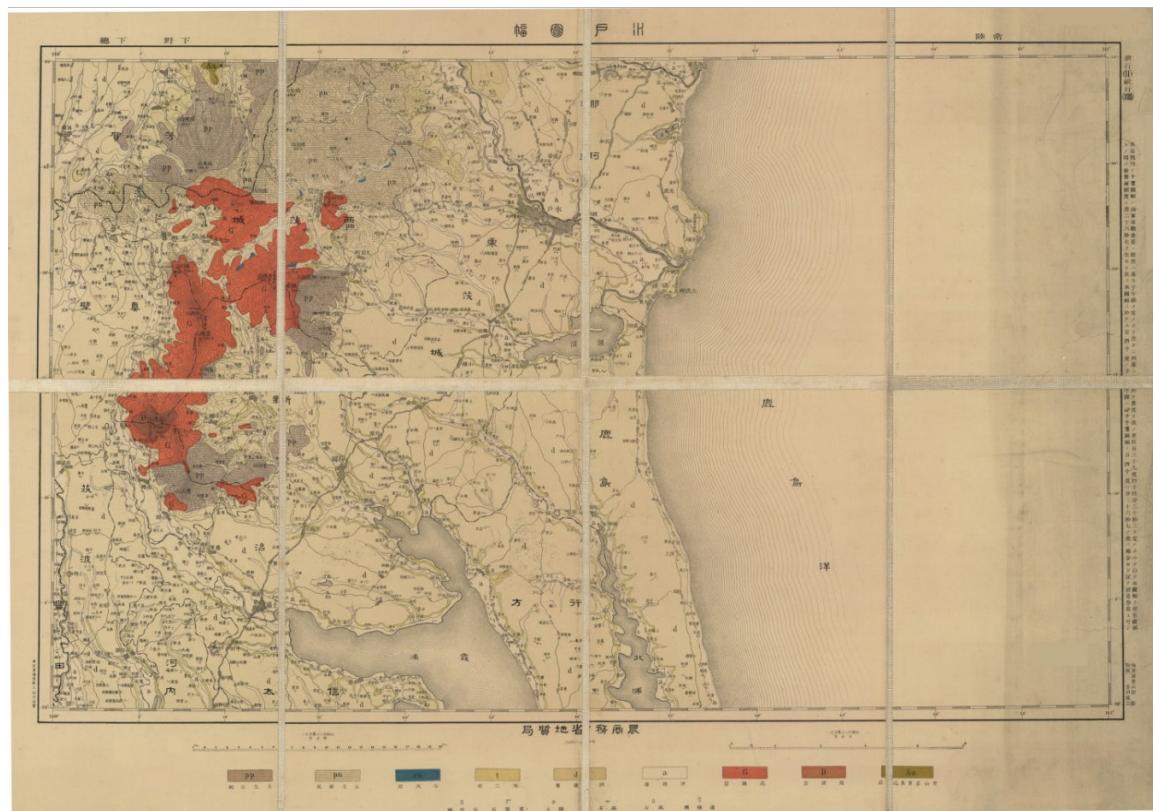
国際地質科学連合 (IUGS) により、2024年7月6日に「筑波山塊の花崗岩」がヘリテージストーン（天然石材遺産）の一つに認定され、地質調査総合センターが明治時代に発行した地質図の石材利用への貢献が評価されました。地質図ライブラリーでは「明治時代の地質図とヘリテージストーン」と題して、2025年5月7日から8月29日にかけて地質の日（5月10日）関連展示を開催し、明治時代の地質図や説明書を展示しました。その様子を口絵で紹介します。



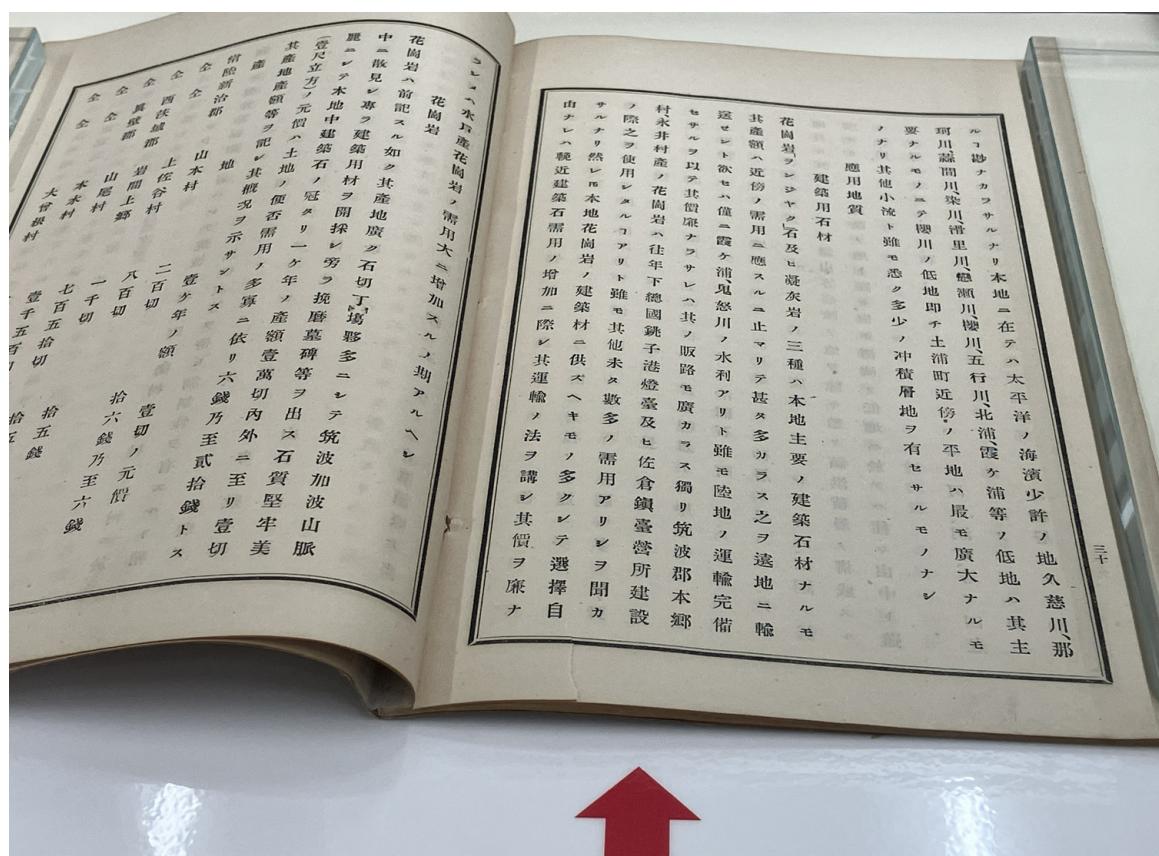
第1図 企画展示の告知ポスター。

¹ 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター

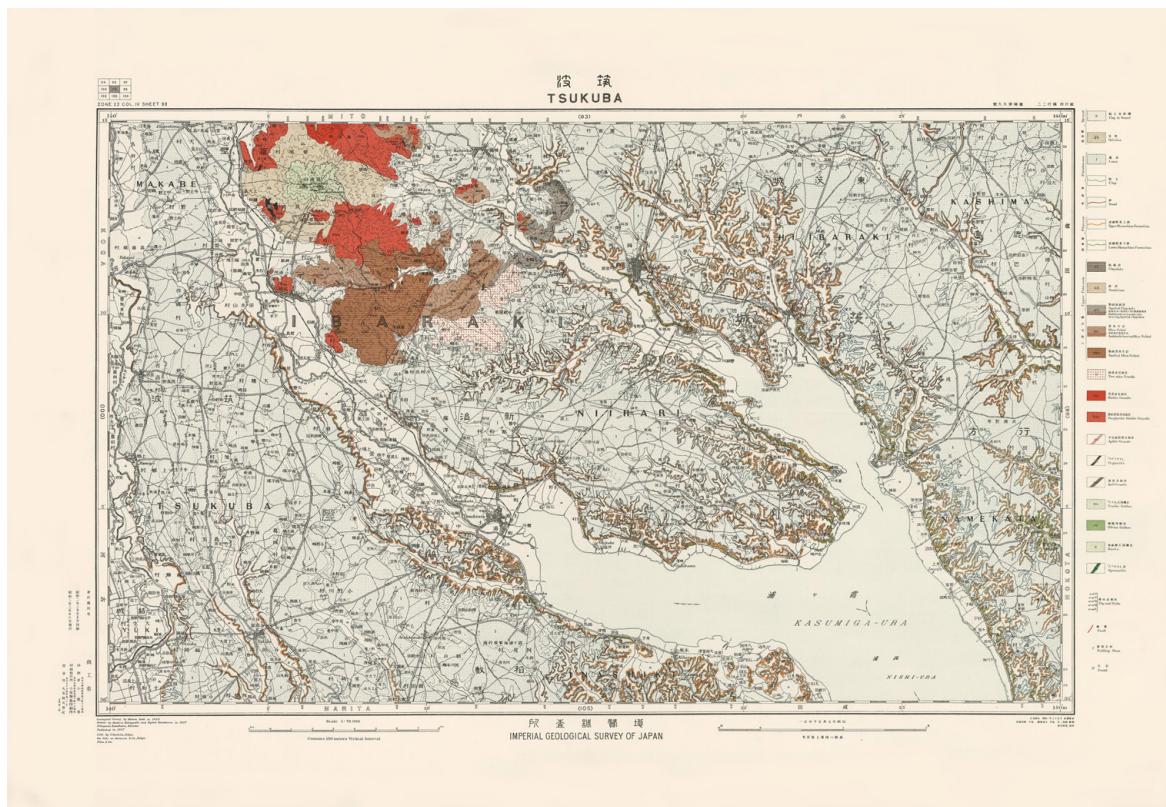
キーワード：地質図、ヘリテージストーン、明治時代、地質図ライブラリー、地質の日関連展示



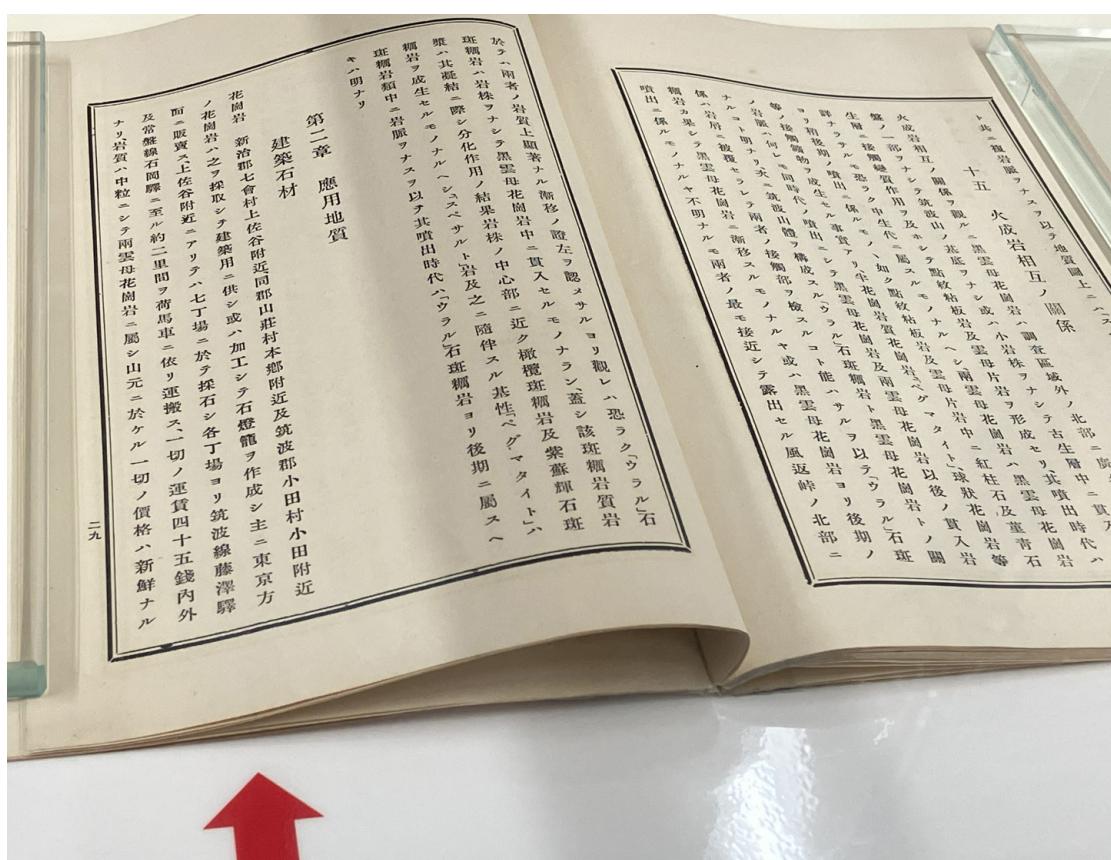
第2図 明治21(1888)年に発行された「水戸圖幅, 20万分の1地質圖幅(山田, 1888)」。筑波山塊の花崗岩(オレンジ色)の分布が明らかにされ、鉄道は未整備であることがわかります。



第3図 「水戸圖幅, 20万分の1地質圖幅(山田, 1888)」の説明書。花崗岩の分布や特性とともに、建築用石材として有用であることが示され、陸路運輸の必要性が示唆されました。



第4図 昭和2(1927)年に発行された「筑波, 7万5千分の1地質図幅(佐藤, 1927)」。筑波山周辺の地質の調査研究も進み、本図幅では花崗岩がより詳細に区分され、また鉄道が整備されたこともわかります。



第5図 「筑波, 7万5千分の1地質図幅(佐藤, 1927)」の説明書。「花崗岩ハ之ヲ採取シテ建築用ニ供シ或ハ加工シテ石燈籠ヲ作成シ主ニ東京方面ニ販賣ス」という記述が見られます。



第6図 岩石(石材)標本の展示。左から稻田石、真壁石(小目)、真壁石(中目)、真壁石(糠目)。



第7図 つくば市周辺で見られるヘリテージストーンマップ。

文 献

佐藤戈止 (1927) 7万5千分の1地質図幅「筑波」及び説明書. 地質調査所.
山田 翰 (1888) 20万分の1地質図幅「水戸」及び説明書. 農商務省地質局.

SATO Tsutomu, SUZUKI Hiroko and TOI Miho (2026) "Geology Day" exhibition at the Geological Map Library "Geological maps of the Meiji Era and Heritage Stones".

(受付: 2025年8月28日)